

分類	連携パターン	他の施策（防災、防犯など）との連携	－
		他の機関（他の自治体、警察、学校、企業など）との連携	○
		市民やNPOとの連携	－
	事業分類	7. 交通安全教育刊行物・資材・交通安全用具の配布や購入支援	

【事例 17】 オリジナル反射材の作成・配布（富山県滑川市）

夕方から夜間にかけての交通事故減少に向け、子どもへオリジナル反射材を配布

1. 取り組みの概要

（1）取り組みの背景と目的

- 平成 22 年度の市内の交通死亡事故件数が 5 件と、前年度の 0 件から大きく増加した。そこで市内の 65 歳以上の高齢者を対象として反射材を配布した。
- その後、平成 23 年 4 月に富山市で夜間にランニング中の中学生が自動車と衝突し死亡するという事故が発生した。被害者は黒っぽい服装をしており、反射材等も身につけていなかったということである。こうした事故を受けて、高齢者だけでなく、子どもも含めた全年齢を対象として反射材を配布することとした。
- 反射材の配布を検討していた当時、市のイメージ・アップ・キャラクターを積極的にアピールしていたため、このキャラクターを反射材のモチーフとして用いることになった。このキャラクター名称は「きらりん」であり、滑川市の特産であるホタルイカをモチーフにしているため、反射材のモチーフとして適切であった。
- 当取り組みの目的は、前述のような事故が発生している中で、夕方から夜間にかけて、歩行者及び自転車の交通事故を減らすため、自転車運転手から子どもの視認性を高めるようにすることである。

（2）取り組み内容

- 全ての年齢層の市民を対象として、市のイメージ・アップ・キャラクター「きらりん」をモチーフにした反射材を作成し、交通安全教室の際等に参加者に配布している。
- 反射材に、市民に認知度のあるイメージ・アップ・キャラクターを起用することで、市民の関心をひき、反射材の着用を促進する狙いがあった。

（3）連携先機関

連携先機関名	連携先機関での本事業配置人数
都道府県警察（交通課）	7 人
交通安全協会	3 人

- 交通安全教室において連携しており、反射材の配布についても協力を得ている。

(4) 事業体制

当該事業予算	約 65 万円
本事業担当職員数	2 人（正規職員）
	1 人（嘱託職員）

2. 取り組みの成果・効果

(1) 実績

- ・ 実施期間：平成 23 年度（継続中）
 - 反射材の配布については、以前から実施しているが、平成 22 年度に 65 歳以上の高齢者に配布するようになってから、注力的に取り組んでいる。子どもを対象とするようになってからは、平成 23 年度からである。
- ・ 物品配布数：
 - 反射エコトートバッグ（画像①）：500 個
 - ・ 平成 23 年 9 月に開催した滑川市交通安全市民大会において参加者に配布
 - 反射マスコット（画像②）：500 個
 - ・ 平成 24 年 2 月に購入。幼児、小学生～高齢者の全世代の交通安全教室等で配布
 - ・ 追加注文しており、合計で 1,000 個以上配布
 - オリジナルストラップ（画像③）：1,000 個
 - ・ 根付紐部分が蓄光するようになっており、暗部で紐が発光
 - ・ 平成 24 年 4 月に購入。同年 7 月に警察署で実施した啓発キャンペーンにて、県立滑川高校生徒全員に配布
 - 反射エコトートバッグ（画像④）：500 個
 - ・ 平成 24 年 9 月に開催した滑川市交通安全市民大会において参加者に配布
 - ・ 前年度のものより反射面を拡大するとともに、英語表記にしたり生地をより丈夫にしたりする等、使用してもらいやすくするため改良
 - オリジナル反射シール（画像⑤）：1,200 枚
 - ・ 平成 25 年 1 月に購入。市のシグナルリーダーによる幼児交通安全教室で年 3 回以上参加した全ての園児に配布
 - 反射マスコット（画像⑥）：400 個
 - ・ 平成 25 年 1 月に購入。②と色違い

(2) 成果

- ・ 市のイメージ・アップ・キャラクターを反射材のモチーフに起用したことで、注目されるようになった。地元の新聞でも取上げられ、この取り組み自体が話題となった。
- ・ イメージ・アップ・キャラクターを起用したことに加えて、継続して配布していることによって、反射材の着用率が向上したように感じられるとのことである。例えば、夜間にジョギングやウォーキングをしている際に、反射材を着用している人を見かけるようになったとのことである。

3. 取り組みにおける課題・留意点と工夫点

(1) 課題・留意点

- ・ 反射材を配布したことの成果を客観的、定量的に把握することが困難である。担当者や関係者の主観的な印象としてか成果を把握できていない。成果がはっきり見えると次の対策等を検討しやすくなる。
- ・ 必要な予算を十分に確保するのが難しい。とはいえ、こうした予算の問題はどの自治体も抱えていると思う。

(2) 取り組みにおける工夫点

- ・ 市民に認知されている市のイメージ・アップ・キャラクターを用いたことで、市民の関心をひくようにした。年齢にとらわれず、幼児から高齢者まで全ての年齢層に配布している。
- ・ キャラクターを用いた反射材の作成後、報道発表を行ない、結果として地元新聞2社に取上げてもらったことで、市民に対して周知することができた。

(3) 今後の課題・展望

- ・ やはり取り組みの成果を客観的、定量的に把握することが、なお残る課題点としてある。
- ・ 今後の方針としては特に決定事項はないが、継続して反射材の配布を行なう予定である。

4. 取り組みの状況

<p>【①反射エコトートバッグ】</p> 	<p>【②反射マスコット】</p> 	<p>【③オリジナルストラップ】</p> 
<p>【④反射エコトートバッグ】</p> 	<p>【⑤反射シール】</p> 	<p>【⑥反射マスコット】</p> <p>②と色違いで、赤、オレンジ、黄、緑の4色</p>

市町村人口 (平成 23 年 3 月 31 日)	交通安全担当職員数		
	専任	兼任	計
33,886 人	1 人 (嘱託職員)	2 人 (正規職員)	3 人
年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
交通事故件数	193	175	161

【本件問い合わせ先】
 富山県滑川市
 産業民生部生活環境課
 076-475-2111